

市民が被災地と災害廃棄物の現状を視察

◎環境課 ☎34・1122  
 防災課 ☎36・7212

市は、7月3日から5日まで、東日本大震災の被災地であり、市が災害廃棄物の受け入れを決めている、岩手県山田町と大槌町の視察を行いました。

今回の参加者は、災害廃棄物の広域処理への理解を得るため「広報しまだ」やホームページでの募集に手を上げた、市民58人。被災地の現状や、災害廃棄物の選別作業の様子などを見て回りました。

内陸部から海岸部にバスが差し掛かると、車窓から見える景色に「テレビや新聞などで見ていたのとは違い、被災地の現状を見たとき、あふれる涙で言葉にならなかった」（女性）との声。大槌町と山田町の災害廃棄物破碎・選別施設では、選別・処理状況を視



大槌町で破碎・選別業務を視察する参加者



山田町の破碎・選別プラント

察。被災地の人たちが、マスクと手袋だけで、がれきの処理をしている姿を目のあたりにし「仮置き場の膨大な廃棄物、悪臭、埃、騒音の実態。新聞やテレビでは決して知ることのできない光景だ」（男性）。「市に搬入される木材チップは、通常のがれき処理よりも、更に丁寧なチップ化されており、その苦労は大変なもの。そこまでやらなければならぬのだろうか」（男性）。「がれきの量を見たら、がれき以外にも生活ごみレベルのものも受け入れたらと思った」（女性）などの声が寄せられました。

大槌町を訪れた際には、被災者から被災当時の様子や避難所での生活、そして復興に向けた取り組みなどについて話を伺いました。また、宮古市の仮設焼却施設では、廃棄物の置き場から焼却炉に投入する流れなども確認しました。

住民同士で話し合う地域の福祉課題

◎福祉課 ☎36・7158

市と社会福祉協議会は、各地域での福祉課題の解決について地域住民が話し合い、課題解決に向けた取り組みを考える「地区福祉懇談会」を開催しました。この懇談会は、昨年度に引き続き行われ「自分たちの地域を自分たちで良くしていく仕組み」として、地区社協（※）の組織設立のきっかけづくりとすることを目的としています。

懇談会は、6月から7月にかけて、小学校区単位の17地区で開催され、自治会役員や民生委員児童委員、保健委員や中学生など、各所で平均25人、延べ439人が参加しました。

懇談会では、6〜8人のグループに分かれ、「課題を予防するために自分たちができる取り組み方法」について意見交換を行いました。市と社会福祉協議会では、今後、地区社協の組織設立に向けて、関係地区への働きかけを積極的に行っていきます。

【参加者からの主な意見】

課題「一人暮らしの高齢者に対する取り組み」について

◎ 回覧板は手渡し、会話をする機会をつくる

◎ 学校と連携し、訪問活動や学校行事への参加を呼びかける

◎ 花の手入れなど、高齢者に地域での役割を与え、生きがいを見つけてもらう

◎ 気軽に立ち寄れる場所、子どもから高齢者までが交流できる「居場所」づくり

課題「子育てで悩んでいる親に対しての取り組み」について

◎ 親子で参加できる運動会や祭りなどの地域行事を開催する

◎ 赤ちゃんからお年寄りまで異世代が集まれるふれあいの場をつくる

◎ 子育てサロンなどの情報提供

※「地区社協」とは、地区社会福祉協議会の略称。住民の生活により近い地域で福祉を実践するため、自治会や民生委員・児童委員、そしてボランティアなどによって構成されている任意の団体です。



六合東小学校区での地区福祉懇談会

## 茶道部合宿地のメッカを目指して

◎観光課 ☎36・7163

市では、交流人口の拡大を目的として「文化合宿誘致促進事業」を行っています。その柱として進めているのが、お茶処の特徴を生かし、大学の茶道部を誘致する活動です。

市内川根地区には、茶道の稽古拠点となる市の茶室棟「杉風庵」<sup>さんふうあん</sup>、そして宿泊先となる「川根温泉ふれあいコテージ」があります。また金谷地区には、お茶の歴史や文化を学べる施設「お茶の郷博物館」があります。

これらの施設を文化合宿に利用してもらおうと、関東地方の大学の茶道部を中心に、電話やメールで熱心に呼び掛けを行うとともに、大学を訪問して



大正大学茶道部員が点てた抹茶をいただく川根小児童

きました。この結果、大正大学と玉川大学の茶道部が、島田市で夏合宿を行うことになりました。

第一弾となった大正大学の茶道部（霜村 毅真顧問と部員31人）の夏合宿は、7月23日から27日まで行われました。杉風庵を拠点に稽古を行い、お茶の郷博物館では茶摘みなどを体験。また、杉風庵に川根小学校4・5年生6人を招き、部員が大日本茶道学会の作法にのっとり、お点前を披露しました。子どもたちは、初めての本格的なお茶会に緊張した面持ちながらも、抹茶を運んでくれる和服姿の部員と、しっかりと礼を交わしました。

文化合宿誘致事業は、平成21年度から市外の高校や大学などの文化部を対象に補助を行っています。昨年度は、高校合唱部や農業大学生の農業体験など6団体延べ229人が、島田市内に宿泊。今年度からの、大学茶道部の合宿誘致は、学生に島田のお茶の良さを知ってもらおう絶好の機会になります。また、お茶や和菓子、宿泊や飲食などの消費による地域経済の拡大や、大学生が地元住民と茶道体験を行うことで、日本の伝統文化である「茶道」について関心を持つ契機とする波及効果が期待されます。

今後も、スポーツ合宿で培ったおもてなしを心掛け「茶道部合宿地のメッカ」として認識してもらえよう、誘致活動を進めていきます。

## 茶の消費拡大に向けて島田と静岡の両市長が会談

◎企画調整課 ☎36・7120

7月10日、桜井島田市長と田辺静岡市長が、今回で5回目となる両市長のトップ会談を、お茶の郷で行いました。この会談は、島田市が旧川根町と合併し、静岡市と隣接したことから、連携協力の強化を目的に始まりました。

会談では、優れたブランドであるお茶を守るため、お茶の消費拡大に向けて、静岡空港の就航先である台湾をはじめとした、海外でのトップセールスを行うっていくことを確認しました。

また、開通した新東名高速道路が、内陸部へのヒトの流れを導く効果をもたらしていることから、大井川流域でつながる両市間回遊ルートの入込客を増加させることで一致。中山間地域の

さらなる活性化を図るため、SLや温泉、スポーツなどをキーワードに、観光の相互PRや、共同イベントを実施することなどを提案しました。

東日本大震災被災地の災害廃棄物の広域処理については「両市の取り組みが他の自治体にも広がり、被災地の復旧・復興が加速することを期待したい」と述べました。



今後の連携を確認した両市長

## 島田の魅力を発信するプロモーションビデオ

◎政策推進課 ☎36・7191

地域外からの誘客促進に向けて「笑顔あるれるまち島田」をイメージし、地域の魅力を発信する、島田市のプロモーションビデオが好評です。

このビデオは、約9分間のハイビジョン映像で「お茶・蓬莱橋・SL・川根温泉・野守の池・帯まつり・島田髷・しまだ大井川マラソン」などを紹介。日本語以外に、英語・韓国語・中国語（簡体字・繁体字）・モンゴル語に対応し

ています。市内外のイベントや企業誘致活動などで活用するほか、市のホームページからもご覧いただけます。



島田市の魅力を紹介